THE YOMIURI SHIMBUN

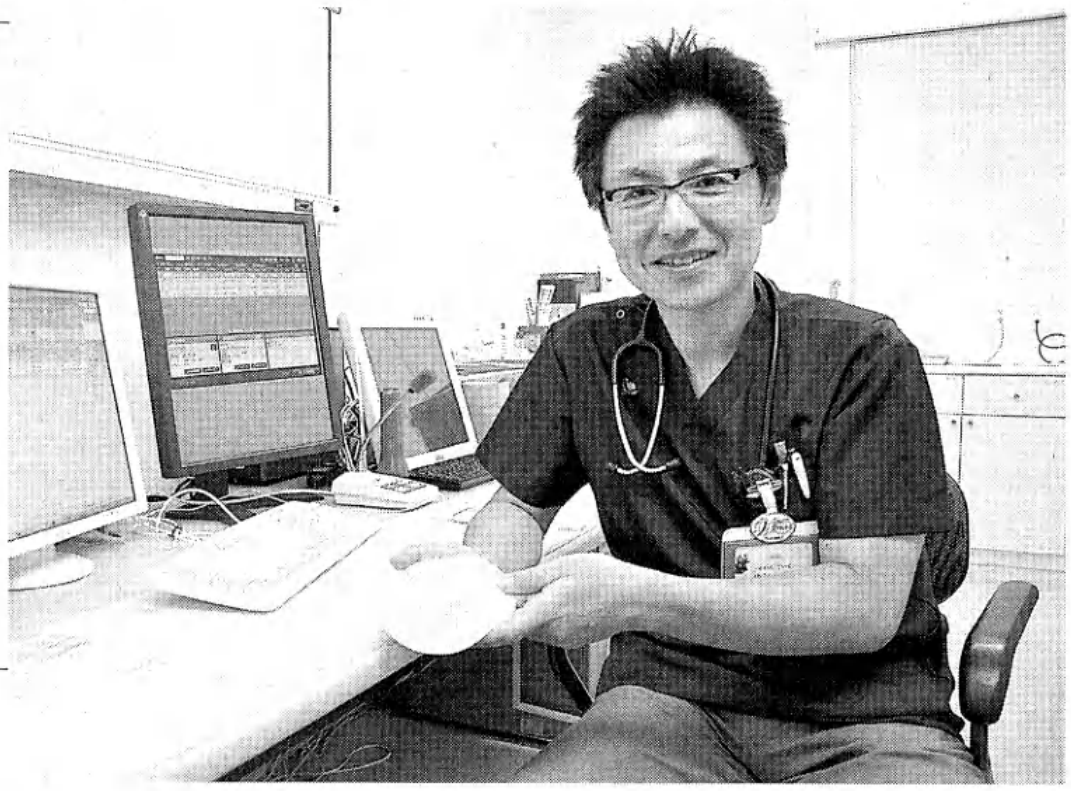
讀賣新聞

2013年(平成25年)
11月28日木曜日

人工乳房再建術 保険適用施設

紀和病院が県内初認定

橋本市岸上の紀和病院が、乳がんで乳房を切除した患者に、7月から保険適用の対象となったシリコーンなどの人工物を使った乳房再建を行うことができる施設として県内で初めて認定され、手術を受け付けている。



保険適用された人工乳房を使った乳房再建について説明する梅村センター長（橋本市で）

乳房の再建には、腹部や背中の筋肉、脂肪などを移植する方法（自家再建）と人工乳房を使う方法があるが、これまでは自家再建のみに、保険がきいた。

自家再建は、費用が安く、温かみが感じられたが、腹など乳房以外に健康な組織も傷つけるため、体の負担が大きかったという。

一方、人工乳房は米国やフランスなどで素材の質の悪さから、トラブルが相次ぐなど、日本でも安全性の問題で保険適用が認められてこなかったが、患者団体らの要望などもあり、国が検討。日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会（東京）など関連学会が、乳腺専門医と形成外科専門医が共同して手術することなどの基準を作り、メーカーにも10年間の追跡調査をさせることを課した上で、保険適用を承認した。

今回、保険適用が認められたのは、柔らかくて丸い旧タイプの「丸形」。一つ100万円程度かかっていた費用が、原則3割の負担で済むようになった。

ただ、普及が進む弾力が強くて、自然な膨らみを作りやすい最新の「しずく形」は認められておらず、国が審査中という。

紀和病院には、乳腺外科専門医と非常勤の形成外科医が一人ずつ在籍。医師が講習を受けるなどして今月上旬までに、乳房に人工物を入れる空間を作る組織拡張器を使った手術と、人工物を挿入するインプラント手術について、近畿厚生局と同学会の認定を受けた。

同病院では2012年、乳房の全摘出手術を受けた患者は21人で、うち7人が自家再建、3人が人工乳房で再建したという。

同院紀和ブレスト(乳腺)センター・梅村定司センター長は「費用の問題であきらめていた患者さんもいたはず。選択肢が広がることで、患者さんの喪失感の解消につながればうれしい」と話している。

紀和ブレスト梅村センター長 「選択肢広がる」